

白井市文化センターのあり方検討委員会第5回会議（概要）

- 1 開催日時 令和4年3月18日（金）午後1時30分から午後4時00分まで
- 2 開催場所 白井市文化センター2階かおり（中）ホール
- 3 出席者
 - (1) 委員 小川真実委員長、三浦永司副委員長、久富清敏委員、島田伸委員、比屋根健委員、山口一郎委員、関口文子委員、山本美智子委員、中島恵委員、板橋章委員、鈴木隆宗委員、藤川敦史委員
 - (2) 欠席者 榛沢宏一委員、五十嵐真人委員
 - (3) 事務局 和地教育部長
文化センター 石田センター長、高花主幹、鎌田図書館長、矢ヶ部主査、岸下主査補、渡邊主任主事、山田学芸員
文化センターのあり方検討支援業務受託者
株式会社シアターワークショップ 伊東、山本、真木
- 4 傍聴者 8名
- 5 議題等
 - (1) 文化センターの運営経費について（訂正）
 - (2) 白井市公共施設個別施設計画について
 - (3) 市民ワークショップ・施設見学会の実施結果について
 - (4) 施設別改修経費・ライフサイクルコストについて
 - (5) 今後のスケジュールについて
 - (6) 今後の文化センターのあり方の検討について

（会議概要）

・主に第4回会議で要望をいただいていた内容について、報告事項及び議題を設定し、事務局から説明を行ったところ、以下のとおり次回会議までに準備すべき資料等の要望が委員から出された。なお、①～⑥のうち、③・④については会議開催前に資料として各委員に送付する。

- ① 設備・機能のブロック化（プラネタリウムのリース料等も分かるよう）
- ② 第9回委員会終了後の市の流れ
- ③ 博物館・図書館の設置根拠に関する法律の規定
- ④ 市として成立し続けるために文化施設の保持が必須条件なのか分かる資料
（4館のうちいずれかの施設を廃止したり、建物の形が変わっても市としての要件を満たし続けられるのか）
- ⑤ 若い世代へ向けた市の取組み
- ⑥ 市民意見聴取の結果まとめ

これらについては、次回以降の会議で説明及び議題として取り上げることとなった。

次回会議の議題は、①～⑥の資料をもとに各委員から規模拡大・現状維持・規模縮小・廃止等についての意見をうかがい、今後のあり方について協議する。

(会議内容)

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 報告事項

- ・ (1) ~ (5) 事務局等より資料に基づいて説明。
- ・ 出された主な意見、質疑等と対応

※市職員が委員の構成メンバーの中に含まれているため、質問に対して事務局ではなく委員が回答しているものもある

(1) 文化センターの運営経費について (訂正)

- ・ 特に無し

(2) 白井市公共施設個別施設計画について

委員 この計画は第5次総合計画に合わせた計画なのではないかと思うが、第4次以前の計画ではどのような計画があったのか。または無かったのか。

委員 これは新規の計画で、それ以前には無かった。

委員 この資料に列挙されている他の施設についてはどの程度の予算で行う予定なのか。文化センターの改修費として4億円強が確保されていたという話だったが、そこに伸びしろがあるかということを知りたい。

委員 この年間2億円という金額は文化センターの改修は除いた金額だと理解している。文化センターについては「※2」に記載してあるように検討委員会の内容を受けて決定してからとなる。

(3) 市民ワークショップ・施設見学会の実施結果について

委員 追加資料3-1の最後のページに、文化センターのあり方検討について「代替施設がない」と青字で書かれているが、これは市民の皆様から出されたご意見か。

事務局 こちらから提示したスライドの資料。このスライドをお見せしながら説明し、皆さまからご意見をいただいた。

委員 市内にも中ホールと同等の大きさのホールはあると思うが、舞台設備が違うため代替施設がないということになっているのか。

事務局 例えば、この会議を行っている中ホールのマイクは外部の技術スタッフにお願いして音響などを調整していただいているが、コミュニティセンターなどではこのような機能や体制を備えていないと思われる。つまり、「やってやれないことはない」がグレードが下がるため、このように表記している。

(4) 施設別改修経費・ライフサイクルコストについて

委員 図書館の電動集密書庫は更新しなければ全く使えなくなるものなのか、使えなくなるならば撤去することになるのか。また現状、電動書庫でどのくらいの冊数を担っているのか、電動書庫がなくなることで本を出していただくまでの所要時間がどの程度長くなってしまいか知りたい。

事務局 電動集密書庫は20万冊ほど収蔵でき、その他の書架では15万冊ほど、全体で約35万冊を

所蔵できる。上下それぞれ3ブロック計6ブロックで構成されている電動集密書庫の、1ブロックを動かすために必要な電動基盤が老朽化しており、交換が必要。電動基盤だけ取り換えれば基本的には使い続けられるため、撤去については考えておらず撤去費用の想定もない。電気がなくても動かさないことはないが、かなり難しく時間も要する。電動書庫から本を出す作業をまとめて行い受け取りは翌日という方法はあるが、現実的ではない。

委員 資料4-2施設の竹案はブロック化して分かりやすくなったが、設備・機能のブロック化もあってしかるべきではないか。例えばプラネタリウムの本体設備費がリース費として事業費に含まれているというお話があり、次回以降の議論のためにも準設備費というように作表していただきたい。

委員 このライフサイクルコストについては資料4-3の1番最初のページにあるとおり、施設全体で概算総額が68.6億円ほどかかる。維持する場合は挙げられている38.8億円に加え、残り30年弱で30億円ほどかかるとという理解で良いか。

事務局 38.8億円という金額は、68.6億円には含まれていない。

委員 改修工事を進めるにあたって、機能維持と施設管理・安全確保のための項目があるが、施設の管理・安全確保のために大ホール・中ホール・図書館・郷土資料館・プラネタリウム等を含めて16.1億円、安全確保のためだけでもそれだけかかるということか。

事務局 施設管理・安全確保のための項目は、例えば倉庫として転用する場合でもかかってしまう金額。外壁や排風機や火災の際に作動する装置など。

(5) 今後のスケジュールについて

委員 第9回委員会で委員会において提言書案の承認を受けるということだが、そのあと教育委員会は市に提出し、市の方針を決定すると思う。そこまでの流れをスケジュールに記載していただけると分かりやすい。

4 議題

- ・事務局より資料に基づいて説明。
- ・出された主な意見、質疑等と対応

※市職員が委員の構成メンバーの中に含まれているため、質問に対して事務局ではなく委員が回答しているものもある

(1) 今後の文化センターのあり方の検討について

委員 資料6-1について、図書館の法律根拠を付け加えていただけたら。もし、図書館をなくするという意見が出た場合に図書館の設置が努力規定なのか義務なのかが焦点になるかもしれないため。

事務局 社会教育法の中に博物館・図書館に関する項目があるので、次回までに提出する。

委員 白井が町から市になった際の条件の中に、文化会館や映画館という文化施設を持っていることという項目があったと記憶しているが、そもそも廃止できるのか。

事務局 市になった際の要件としてはおっしゃったような項目があった。廃止できるのかどうかについてはこの場ではお答えできないので、次回会議開催前までに各委員に送付する。

- 委員 保持しなければならない場合、現状の建物そのものでなくても、例えば取り壊して屋外施設を作るといような形でも法令上問題ないのかどうか確認してほしい。
- 委員 物価上昇率は考慮されていない数値ということだが、この数年間で建設物価指数が 1.3～1.5 倍まで上がっていることは念頭に置いた方が良い。
- 委員 この委員会はあり方検討の委員会なので、市民がどのように考えていて、この施設をどのようにしていこうかという議論に特化しても良いのではないか。施設をどのようにしていくかに集約し、費用や手法・技術的なことは日進月歩なのでその先の議論でも良いのではないか。
- 委員 これまでは設備やハード面の話が多く出てきたが、市民からの意見ではソフト面への意見が多い。人件費・事業費について考えるタイミングが欲しい。
- 委員 白井市で若い世代を取り込むために行われていることがあったら知りたい。
- 委員 子育て施策に関してまとめた資料を後日作成し、提示させていただきたい。
- 委員 金額を見ると難しい印象だが、教育に携わる者としては、外壁や天井など出来る部分だけでも改修し、施設を残していただけると有難い。何のためにこの施設があるのかを大方針の中に盛り込み、そのためにこのような負担が生じるという説明が出来たら良いのではないか。
- 委員 次回は事務局から回答・説明、皆さんから意見聴取、方針を暫定的に決めていくという運びになる。議題に関して本日は取りまとめられるほど議論が尽くされていないので、継続審議にしたい。

5 その他

・特に無し

6 閉会

以上